

第42期 決算説明資料

(自 平成19年4月 1 日 至 平成20年3月31日)

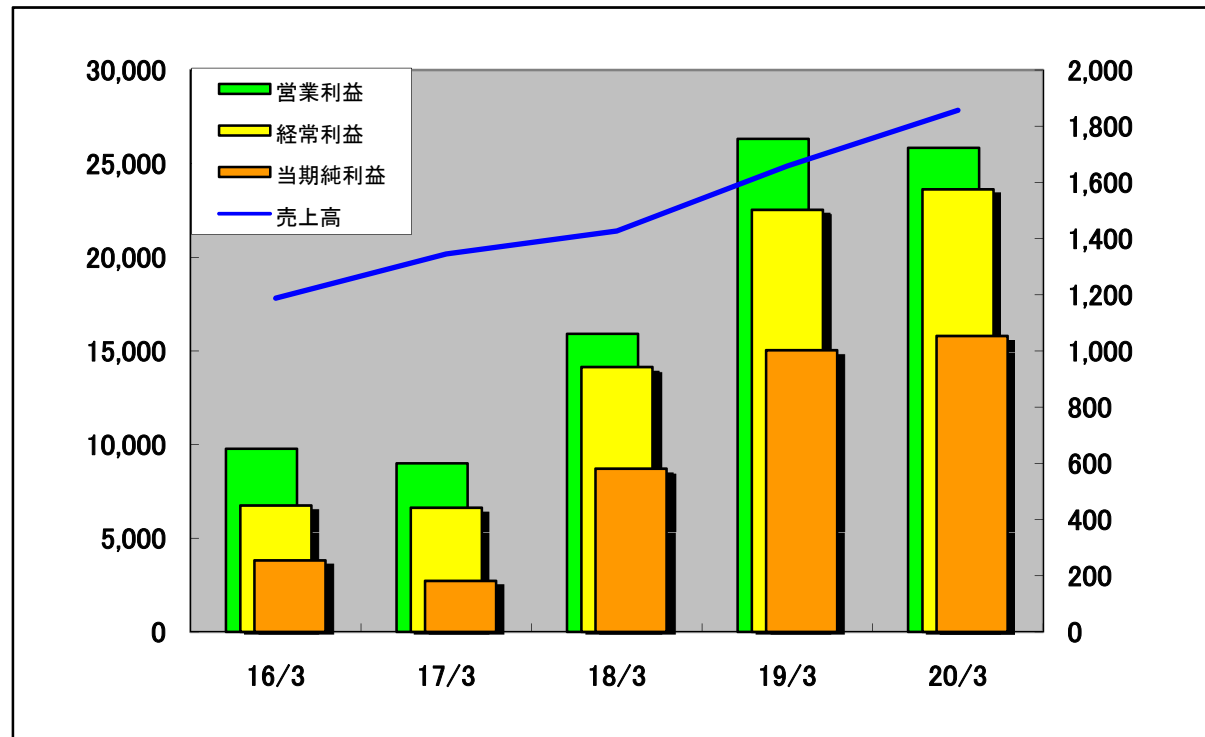
株式会社 **工ノモト**

- 【会社名】 株式会社 **エノモト**
- 【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.
- 【コード番号】 6928 **JASDAQ**
- 【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>
- 【代表者】 代表取締役社長 榎本 正昭
- 【問合せ先】 専務取締役 管理本部長 山崎 宏行
- 【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp
- 【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19
- 【電話番号】 0554(62)5111(代表)



当期のご報告

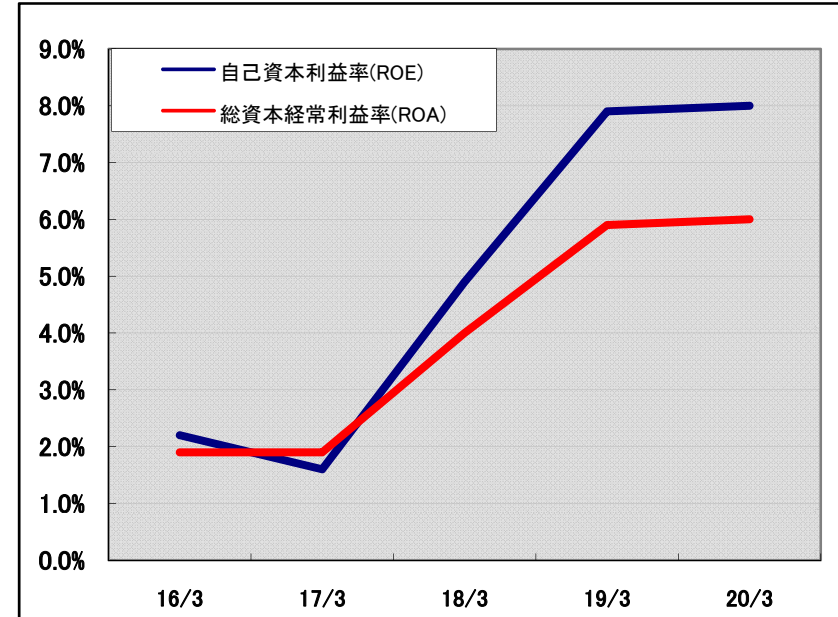
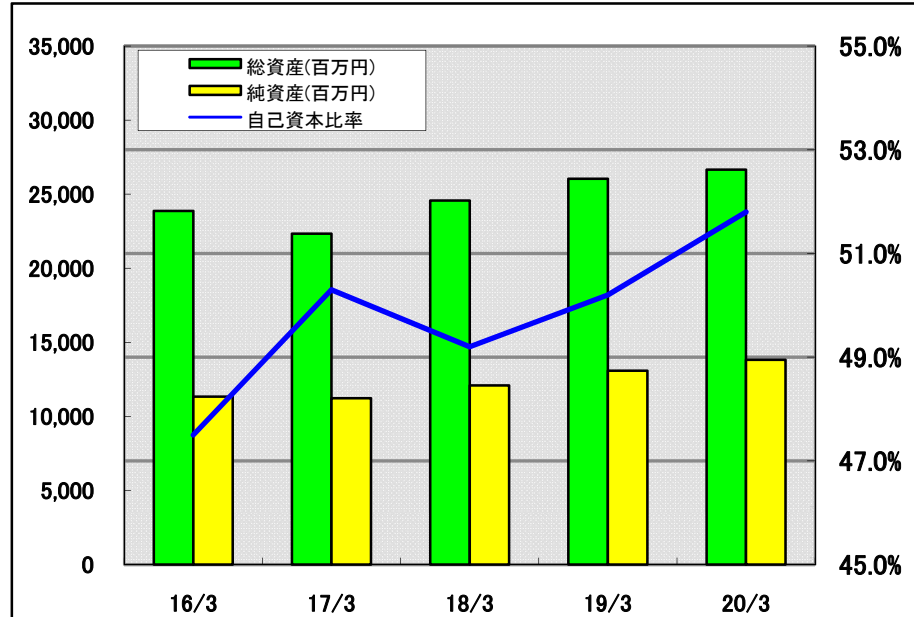
■ 連結業績の推移



百万円

	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	前期比
売上高	17,821	20,176	21,405	24,874	27,851	12.0%増
営業利益	652	600	1,061	1,755	1,724	1.8%減
営業利益率	3.6%	3.0%	5.0%	7.1%	6.2%	0.9P減
経常利益	450	442	943	1,503	1,577	5.0%増
経常利益率	2.5%	2.2%	4.4%	6.0%	5.7%	0.3P減
当期純利益	255	182	581	1,003	1,085	8.2%増
当期純利益率	1.4%	0.9%	2.7%	4.0%	3.9%	0.1P減

■ 財政状態



百万円

	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3
総資産(百万円)	23,875	22,340	24,572	26,044	26,661
総資産回転率	75.1%	87.3%	91.3%	98.3%	105.7%
純資産(百万円)	11,332	11,226	12,088	13,083	13,816
自己資本比率	47.5%	50.3%	49.2%	50.2%	51.8%
自己資本利益率(ROE)	2.2%	1.6%	4.9%	8.0%	8.1%
総資本経常利益率(ROA)	1.9%	1.9%	4.0%	5.9%	6.0%

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業の堅調な設備投資と新興国向けの輸出に支えられ、景気は緩やかながら拡大基調での推移となりました。しかしながら、非鉄金属価格の高止まりに加え、昨年後半から米国のサブプライムローン問題に端を発した米国経済の減速並びに株式市場の低迷、円高ドル安基調及び原油価格の高騰など、景気先行きに対しての不透明感が強まってきております。

海外経済におきましては、中国を中心にアジア経済は高い成長率を続けたものの、米国の景気後退も懸念されていることから、先行きへの警戒感が強まっております。

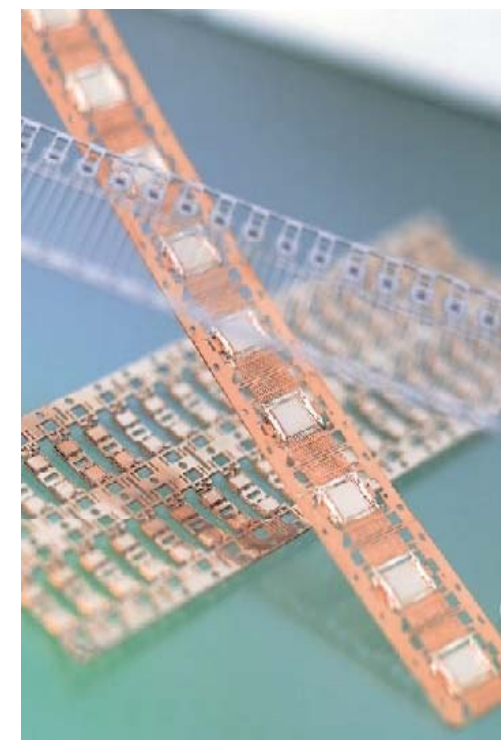
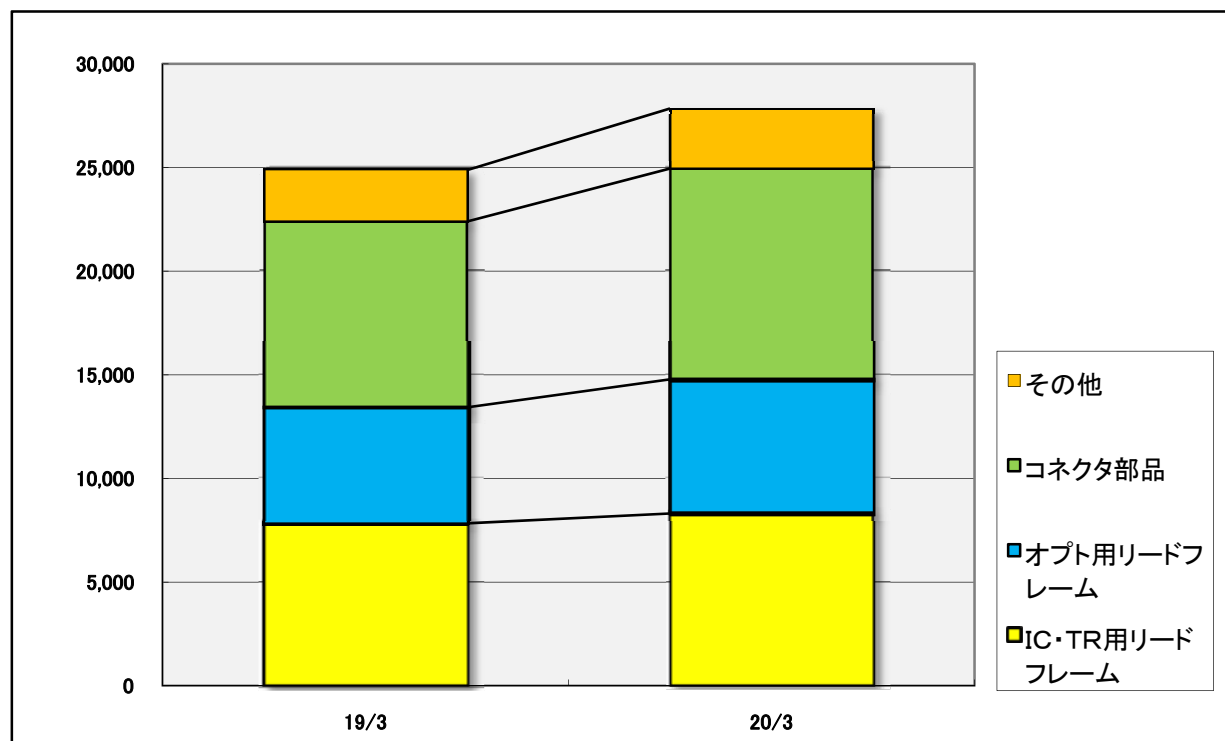
当社グループの属する電子部品業界におきましては、携帯電話・デジタル家電・IT機器の世界的な需要増加に加え、特に自動車のエレクトロニクス化の進展により車載向けデバイスの市場が伸びました。

しかしながら、企業間競争の激化による製品価格の下落に加え、円高、原油高、原材料である非鉄金属価格の高止まりが重なり厳しい経営環境が続いております。

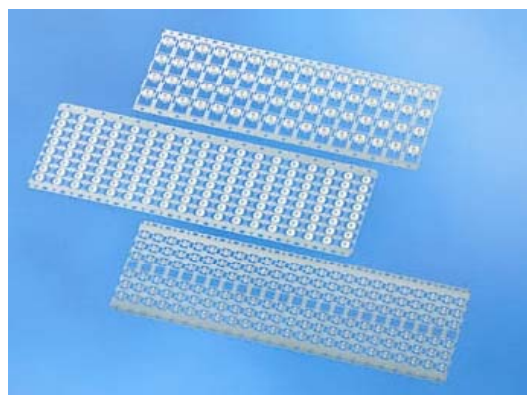
このような状況下ではありますが、当社グループは電子機器をはじめ、車載向けとしても急速に需要が高まっているLED用部品やPDA・携帯電話向けの用途が主であるマイクロピッチコネクタ用部品の製造に経営資源を集中させるとともに、「高品質」「短納期」「低価格」という根本的な顧客ニーズへの対応に取り組み受注の拡大に努めて参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は278億5千1百万円(前連結会計年度比12.0%増)、営業利益17億2千4百万円(同1.8%減)経常利益15億7千7百万円(同5.0%増)、当期純利益10億8千5百万円(同8.2%増)となりました。

■製品群別業績(売上高)



百万円



	19/3	20/3	前期比
IC・TR用リードフレーム	7,833	8,310	6.1%増
オプト用リードフレーム	5,596	6,473	15.7%増
コネクタ用部品	8,966	10,167	13.4%増
その他	2,478	2,900	17.1%増
合計	24,874	27,851	12.0%増

① IC・TR用リードフレーム

当製品群は、車載向け、民生用機器向けが主なものであります。前期に引き続き高水準の需要が続いており、更なる品質の向上及び原価低減等により顧客ニーズへの対応に努めて参りました。当製品群の売上高は83億1千万円(前連結会計年度比6.1%増)となりました。

② オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用部品及びレーザー用部品が主なものであります。当社グループの強みである金属と樹脂の複合製品であるSMDタイプを中心に受注は堅調に推移いたしました。その結果、当製品群の売上高は64億7千3百万円(同15.7%増)となりました。

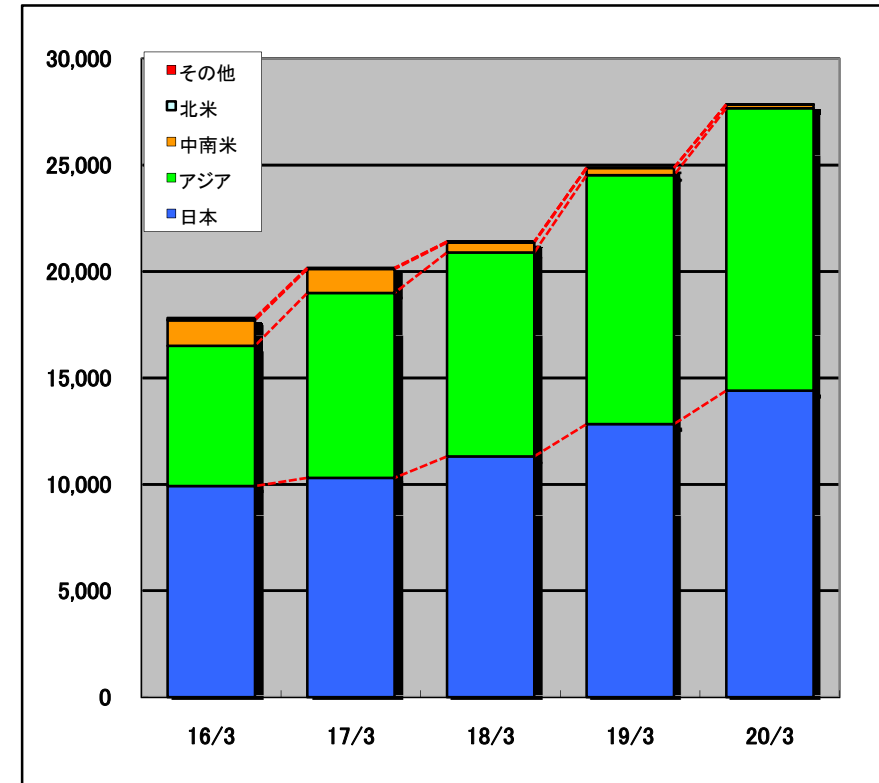
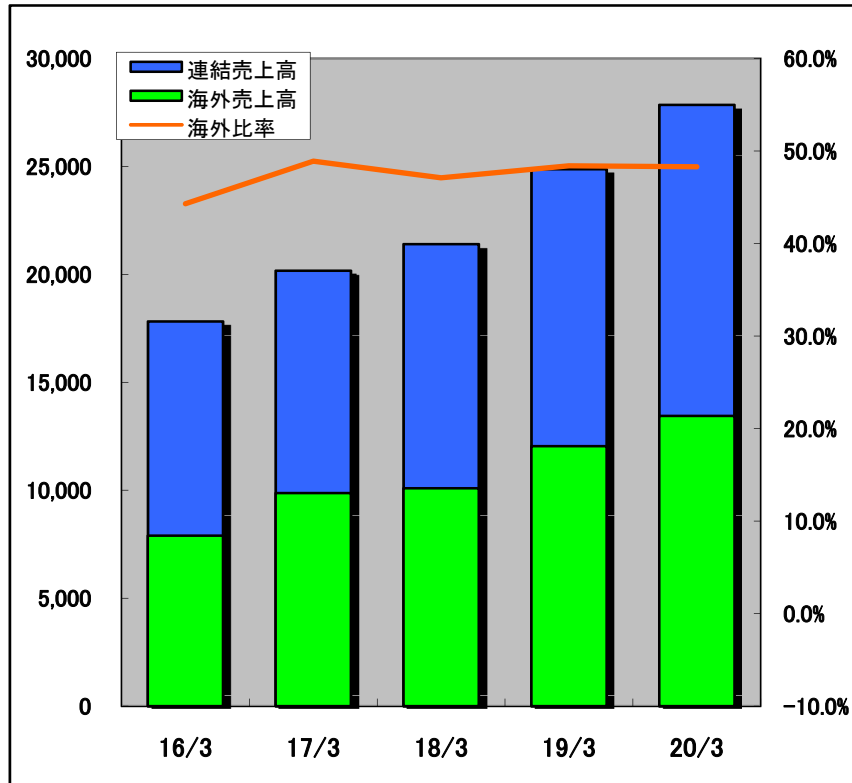
③ コネクタ用部品

当製品群は、携帯電話向け、デジタル家電向けが主なものであります。当社の得意とする微細加工技術をベースに、携帯電話向けで需要が拡大しているマイクロピッチコネクタ用部品への拡販に努めて参りました。当製品群の売上高は101億6千7百万円(同13.4%増)となりました。

④ その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は29億円(同17.1%増)となりました。

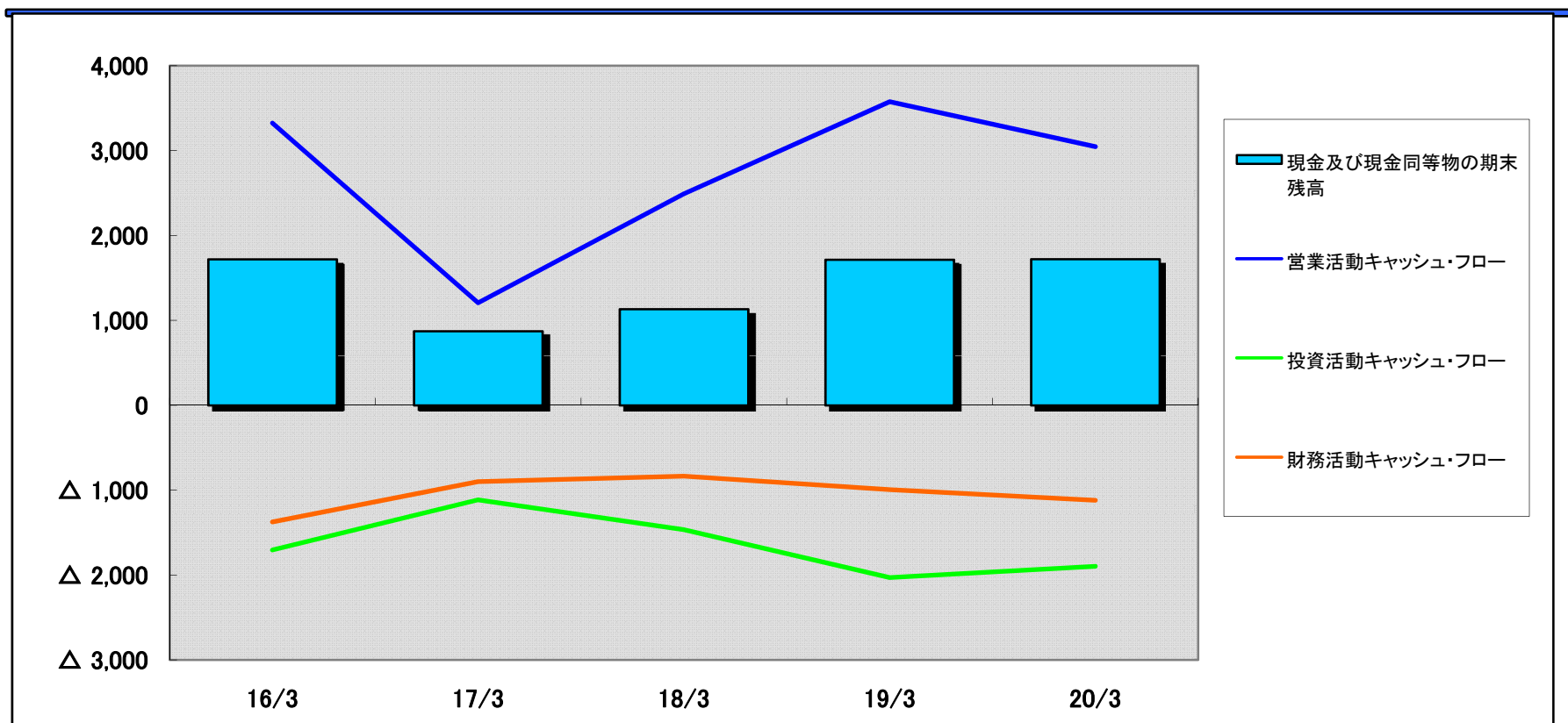
■地域別売上高



	百万円				
	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3
連結売上高	17,821	20,176	21,405	24,874	27,851
海外売上高	7,900	9,868	10,091	12,043	13,446
海外比率	44.3%	48.9%	47.1%	48.4%	48.3%

	百万円				
	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3
日本	9,921	10,307	11,314	12,831	14,405
アジア	6,591	8,687	9,581	11,695	13,267
中南米	1,196	1,128	469	339	171
北米	37	20	36	8	3
その他	74	32	3	0	4

■ キャッシュ・フロー



百万円

	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	前期比
営業活動キャッシュ・フロー	3,325	1,207	2,490	3,576	3,047	△ 528
投資活動キャッシュ・フロー	△ 1,705	△ 1,114	△ 1,464	△ 2,029	△ 1,897	132
財務活動キャッシュ・フロー	△ 1,374	△ 899	△ 835	△ 994	△ 1,119	△ 124
現金及び現金同等物の期末残高	1,720	872	1,132	1,715	1,722	7

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ7百万円増加し、当連結会計年度末には17億2千2百万円となりました。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は30億4千7百万円(前年同期比14.8%減)となりました。これは税金等調整前当期純利益14億9千7百万円及び減価償却費16億5千7百万円等による資金の増加によるものであります。

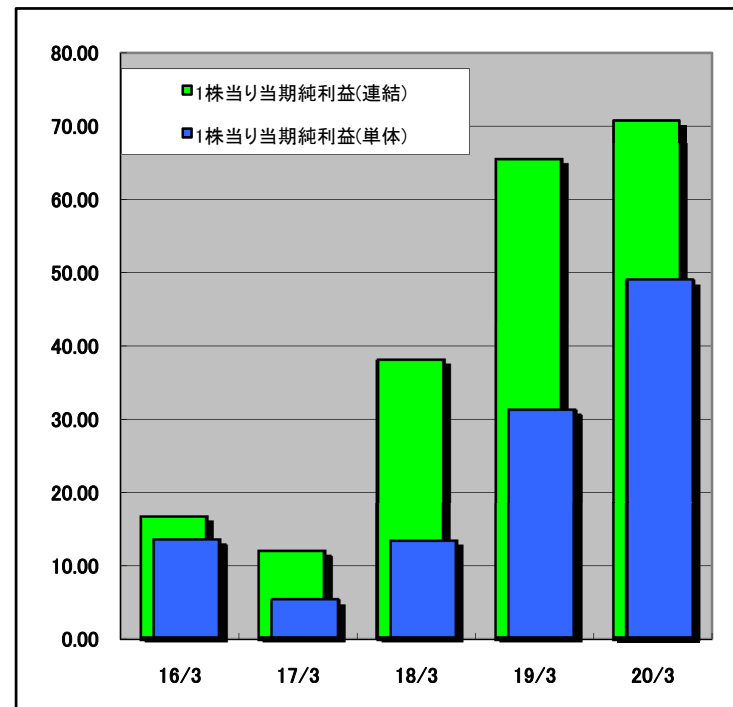
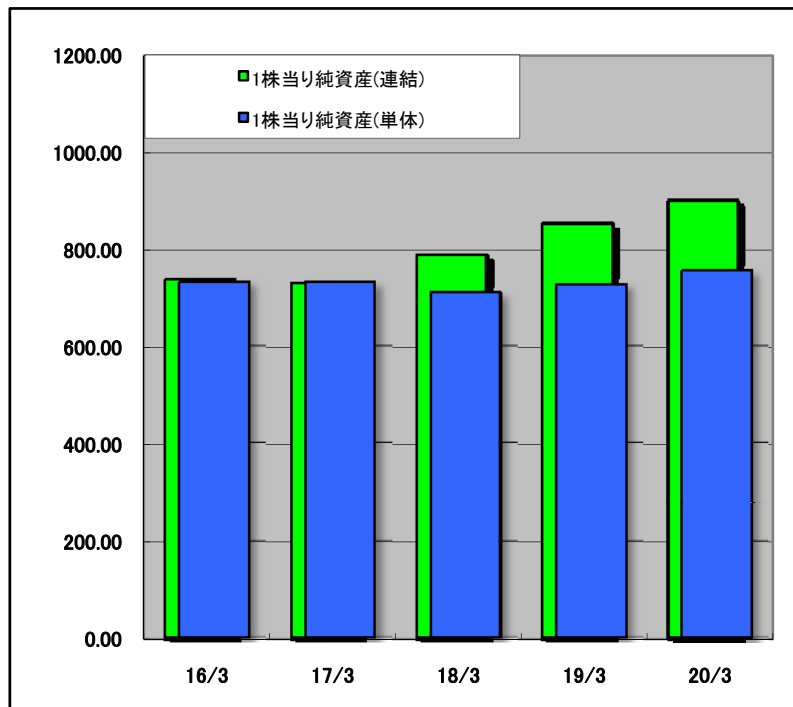
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は18億9千7百万円(同6.5%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得20億2百万円及び有形固定資産の売却による収入2億7百万円によるものであります。

➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は11億1千9百万円(同12.5%増)となりました。これは主に長期借入金の純減少額5億8千8百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出1億5千9百万円及び配当金の支払2億7千6百万円によるものであります。

■ 1株当り指数



	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3
1株当り純資産(連結)	738.68	731.81	788.07	853.01	900.98
1株当り純資産(単体)	733.43	732.77	711.52	729.00	756.59
1株当り当期純利益(連結)	16.65	11.92	37.90	65.42	70.78
1株当り当期純利益(単体)	13.54	5.21	13.32	31.05	48.95

○利益配分に関する基本方針

株主の皆様への利益配当金について、当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。内部留保資金につきましては、電子部品業界における技術革新に対応するためタイムリーな製品開発に努め、成長に向けての有効な投資に活用してまいります。

当期の1株当たり期末配当金は9円を予定しており、先の中間配当金と合わせた年間配当金は、前期に比べて3円増配の18円となります。

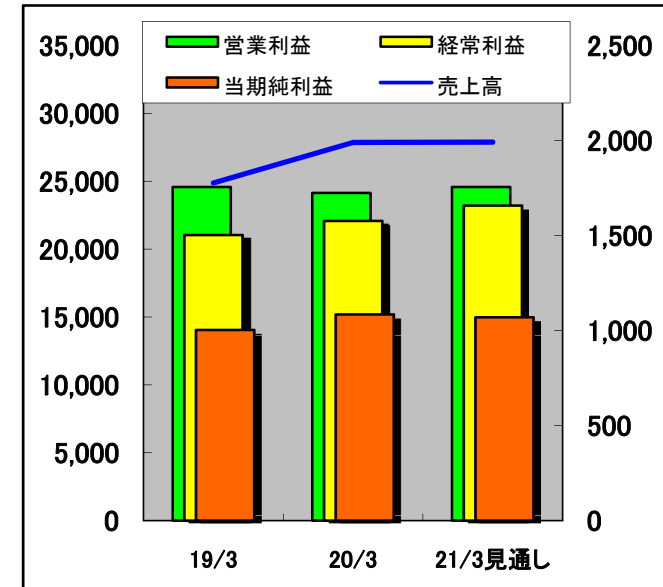
次期の見通し

■通期業績予想

●連結

百万円

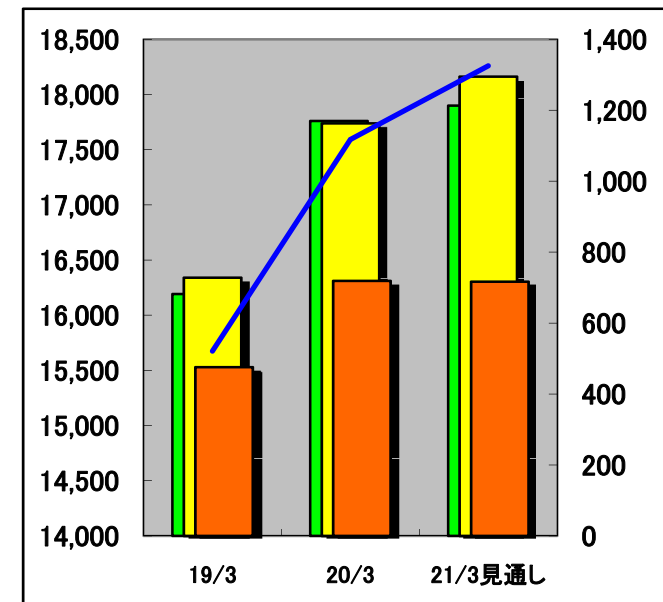
	19/3	20/3	21/3見通し	前期比
売上高	24,874	27,851	27,880	0.1%増
営業利益	1,755	1,724	1,755	1.7%増
営業利益率	7.1%	6.2%	6.3%	0.1P増
経常利益	1,503	1,577	1,658	5.1%増
経常利益率	6.0%	5.7%	5.9%	0.2P増
当期純利益	1,003	1,085	1,070	1.4%減
当期純利益率	4.0%	3.9%	3.8%	0.1P減



●単体

百万円

	19/3	20/3	21/3見通し	前期比
売上高	15,674	17,592	18,260	3.8%増
営業利益	682	1,171	1,213	3.5%増
営業利益率	4.4%	6.7%	6.6%	0.1P減
経常利益	728	1,164	1,295	11.2%増
経常利益率	4.7%	6.6%	7.0%	0.4P増
当期純利益	476	750	717	4.5%減
当期純利益率	3.0%	4.3%	3.9%	0.4P減



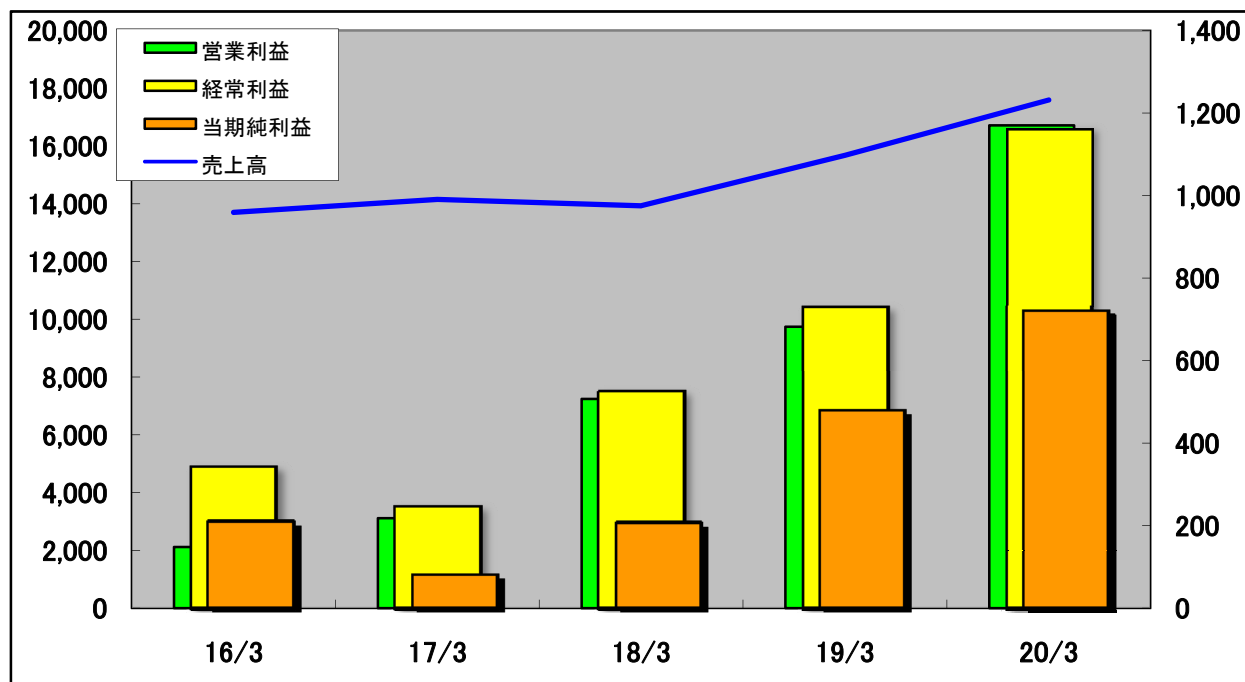
次期の見通しといたしましては、原油価格の高騰や非鉄金属相場の高止まり並びに米国経済の減速など、景気に対する先行きは不透明な状況ですが、当社グループの主力商品であるオプト用電子部品の市場規模は年を追って順調に拡大しており、新興国の経済成長と相まって今後とも比較的堅調に推移することが予想されます。一方、国内経済は北京五輪開催によるデジタル家電需要の増加が期待されるものの、急激な円高や景気の先行き不安による個人消費の停滞懸念など経営環境は引き続き厳しい状況が続くと思われれます。

当社グループといたしましては、今春『経営品質の向上と新たな価値の創造』をメインテーマとする中期経営方針を新たに策定いたしました。本方針のもと、全従業員が一丸となり、ステークホルダーの皆様のご期待に応える企業グループを目指し鋭意努力していく所存であります。

通期の連結業績につきましては、売上高は278億8千万円(前期同期比0.1%増)、営業利益は17億5千5百万円(同1.7%増)、経常利益は16億5千8百万円(同5.1%増)、当期純利益は10億7千万円(同1.4%減)を見込んでおります。

補足資料

■単体の業績推移



百万円

	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	前期比
売上高	13,701	14,152	13,931	15,674	17,592	12.2%増
営業利益	148	218	507	682	1,171	71.7%増
営業利益率	1.1%	1.5%	1.5%	4.4%	6.7%	2.3P増
経常利益	339	244	523	728	1,164	59.8%増
経常利益率	2.5%	1.7%	1.7%	4.7%	6.6%	1.9P増
当期純利益	207	80	204	476	750	57.6%増
当期純利益率	1.5%	0.6%	0.6%	3.0%	4.3%	1.3P増



中期経営方針

経営品質の向上と
新たな価値の創造

2008年度 経営重点項目

- ・ 内部統制システムの確立
- ・ 高付加価値製品の拡販
- ・ 顧客満足度の向上

当社グループは、今後益々グローバル化が進展し不確実性が増していく経営環境下において、力強く成長し続ける企業グループを目指し、2008年度より2010年度の3年間にわたる新たな中期経営方針を策定いたしました。本方針のメインテーマとして『**経営品質の向上と新たな価値の創造**』を掲げ、経営機能の強化を始めとする経営の高度化・深化を追求すると同時に、技術で生きる企業として、イノベーションを通じて新しい価値を創造し、次の時代を担う事業基盤を築き上げて参る所存であります。



①内部統制システムの確立

コンプライアンスを遵守し、透明性と倫理性の高い強い経営基盤を持つ企業グループを目指して参ります。また、CSR(企業の社会的責任)を常に意識した経営を心掛け、社会から信頼される企業となるべく行動して参ります。



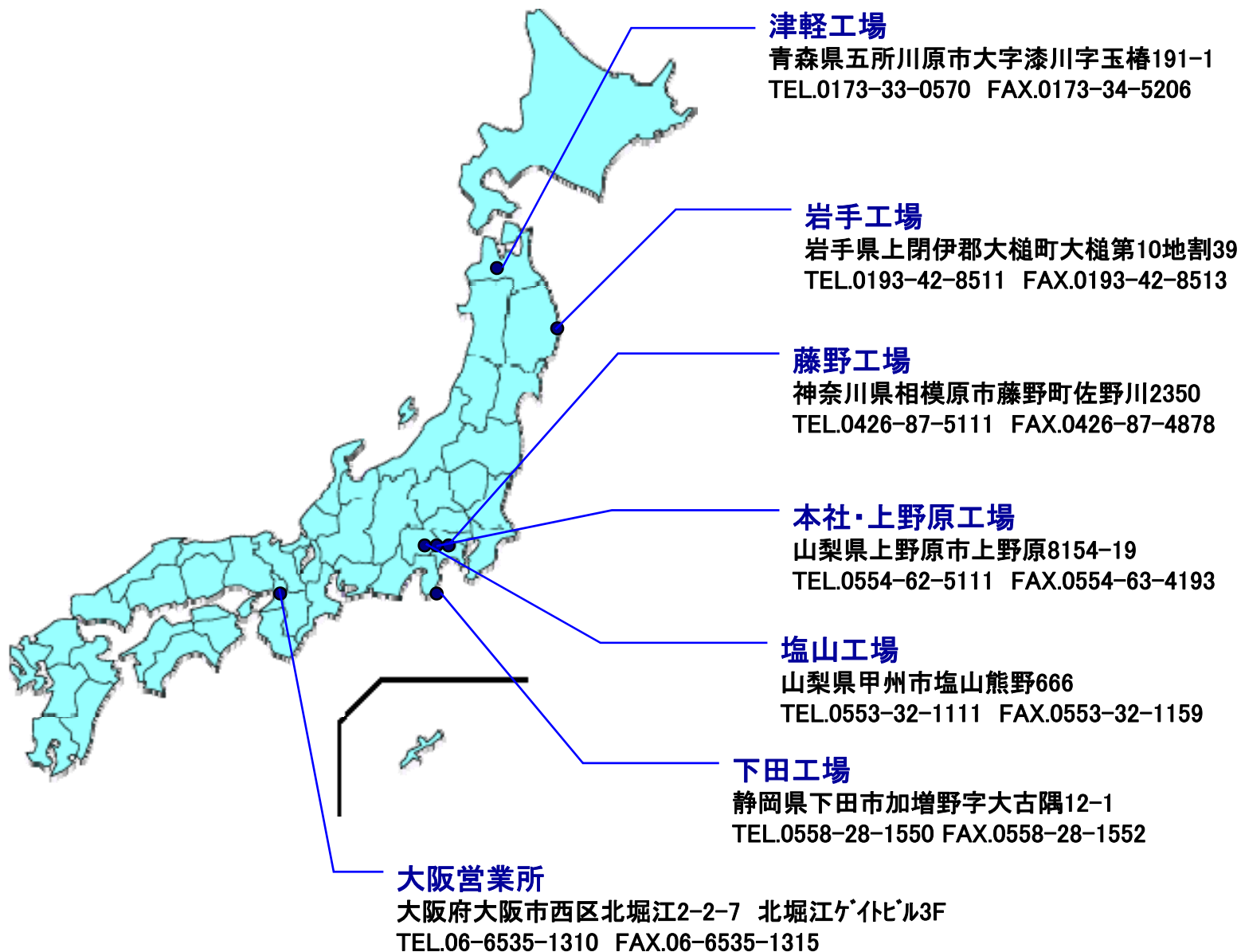
②高付加価値製品の拡販

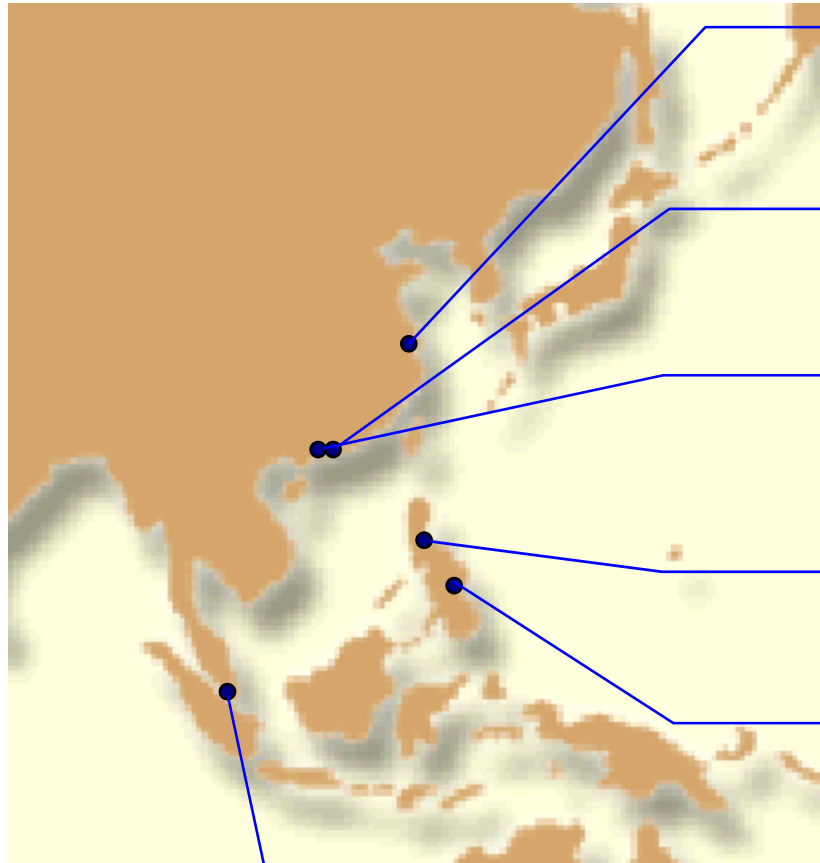
従来の当社グループの強みである複合加工(プレス加工～樹脂成型加工)への対応のみならず、2008年度からは津軽工場において鍍金工程も量産対応できる体制が整い、一つのアイテムに対してより付加価値の高い製品の供給が出来るようになりました。今後、顧客に対して樹脂工程及び鍍金工程を含めた高付加価値製品の拡販を重点的に進めて参ります。

③顧客満足度の向上

顧客から高い評価と信頼を勝ち取り、長年にわたるパートナーシップを築く為に、品質保証体制の強化とより高いレベルでの品質管理の徹底を図って参ります。このような品質向上への不断の取り組みを通じて、顧客満足度の高い製品・サービスを提供し続けて参ります。







ENOMOTO WUXI Co.,Ltd.

江蘇省無錫市無錫國家高新技術產業開發區96號-C
TEL.+86-510-5345222 FAX.+86-510-5344008

ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd

香港九龍梳士巴利道3號星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.

廣東省中山市火炬開發區逸仙工業區
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.

PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

**ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING INC.
CEBU OPERATIONS**

Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington
Road, Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.

30Loyang Drive,Singapore 508945
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.